



正改
經濟說略

永田健助編述

下

洋学文庫
文庫 8
C 251
2





財貨ヲ
分チテ
三者ト
ス

經濟說畧卷之下

財貨分配論

永田健助 編述



○財貨ヲ産出スルニ土地勤勞及ヒ財本ノ三者
ヲ要スルヲハ前編既ニ説明スル所ナリ其因テ
産出スル所ノ財貨ヲ分チテ三股トス即チ地主
ノ所得ヲ地代ト云ヒ勞者ノ所得ヲ賃銀ト謂ヒ
財主ノ所得ヲ利潤ト云フ是レ財貨分配論ニ於
テ説ク所ナリ

經濟說畧

下卷

此三者ノ配分ノ法ハ各國各種ノ風習アリ

○地代賃銀及ヒ利潤ノ分配法ハ各國各種ノ習慣アリテ其法一ナラス英國ノ如キハ凡テ農作ニ於テハ其産出スル所ノ者ヲ地主借地人即チ財主及ヒ力役者ノ三者ニ配分スルヲ常トス然レモ佛蘭西意大利亞及ヒ日耳曼等ノ諸國ニ於テハ我國ニ於ケルカ如ク農夫一人ニシテ此三者ヲ兼有シ即チ農夫ハ自ラ我土地ヲ耕耘スル者多シ此場合ニハ其産出スル所ノ物品ハ悉ク農夫一人ノ所有ニ歸ス之ヲ名ケテ有土農夫ト云フ又地主ヨリ土地ヲ借受ケ自己ノ財本ヲ入レテ

地代ノ

自ラ耕作スル者アリ之ヲ自作農夫ト云フ此場合ニハ賃銀ト利潤トハ借地人ノ所有ニ歸シテ地主ニハ止地代即チ小作米小作金ヲ拂フアルノミ印慶及ヒ愛爾蘭等ノ農作ハ我國ノ如ク殊ニ此小作ノ農民多シ是ノ如ク土地借貸ノ方法ハ各國古来ノ慣習アルヲ為各種ノ風アリテ一定ノ方法無クナリ

第一章 地代ノ事

○地代ハ土地ヲ使用シタル代價ナレハ地主タ

ル者ノ正シク取ルヘキ財貨ノ股分ナリ而シテ
 此地代ヲ定ムルノ方法ハ或ハ古来ノ慣習ニ因
 ルアリ或ハ競争法ニ因ルアリテ各國其法一ナ
 ラス英國ノ如キハ大率競争ニ因レリ即チ地主
 ハ最モ高キ地代ヲ出シテ土地ヲ借ラントテ乞
 フ者ヲ擇テ之ニ貸シ與フ此方法ニ由テ地代ヲ
 定ムル時ハ借地人ト地主トノ間ニテ互ニ物品
 ヲ賣買スルト其理全ク同一ナリ

地代ノ
 性質ノ
 解

○凡テ地代ニ差異ヲ生スルモノハ村落ニ於テ
 ハ耕地ノ肥瘠ト地勢ノ便否トニ由リ都會ニ於

テハ商買ノ開闢ニ由ルモノトス若シ地味最モ
 惡クシテ地勢不便ナレハ些少ノ地代モ得難ク
 此ヘシ何トナレハ斯ル土地ヲ借テ耕セハ其産
 物ヲ以テ地代ヲ償フニ足ラサレハナリ又地味
 最モ膏腴ナルモ僻邑邊陲ニ在ルヲ以テ運輸ノ
 便不通ナルカ為メニ必シモ地代ヲ得ヘカテサ
 ルモノアリ近クハ我北海道遠クハ亞米利加及
 七澳太利亞ニ於テ人烟絶テ無キ廣漠ノ野即チ
 是レナリ
 故ニ土地ハ其收穫ノ多寡ト運輸ノ便否トニ由

テ地代ノ比例ヲ立ツルモノトス例ヘハ甲地ノ
 産出米年ニ一百圓ノ價ニシテ乙地ノ産出米七
 十圓ナレハ賣買上甲ノ地價ハ乙ヨリ三割高價
 ナルヘシ然レハ甲地ノ地代ハ其地價ノ差異ダ
 ケ即チ三割乙地ヨリ高價ナラサルヘカラス
 ○右甲乙二地ノ地代ヲ定ムルニ甲地ハ乙地ト
 比較シテ其産出米ノ多寡ニ基テ之ヲ定ムルト
 雖モ下等ナル乙地ノ地代ヲ定ムルニハ地味最
 モ惡シクシテ毫モ地代ヲ出スヘキ産力無キ粗
 田ト比較シ其等級ノ差異ヲ本位トシテ定ムル

リカルド氏ノ説

耕作ノ限界

ナリ是レリカルド氏英國有名ノ學者トシテ説明セ
 ル有名ナル地代論ナリ
 ○此ノ本位トナス粗田ハ耕作スルノ得ヘキ限
 界ニシテ是ヨリ下等ナル土地ハ何人モ之ヲ捐
 テ耕作サル可シ何トナレハ之ヲ耕スモ其産
 物ヲ以テ地代ハ勿論耕作ノ費用ヲモ償フ能ハ
 サレハナリ然レモ國ニ人口増加シテ從來ノ耕
 地ヨリスルモノヲ以テ其食料ニ充ルニ足ラサ
 レハ漸ク農作物ノ價ヲ騰貴スルニ至ル此場合
 ニハ前ニ荒蕪ニ委セシ土地モ耕費ハ勿論地代

ヲモ收得スルヲ得ルニ至リ隨テ其地價ヲ生シ
テ之ニ耕作スルニ至ルヘシ是故ニ人口増殖シ
テ食糧騰貴スル時ハ隨テ地代ヲ騰貴スルモ
トス

人口ノ
多寡ヲ
以テ國
ノ富強
ヲ測リ
難シ

○國ニ人口多ケレハ國隨テ富ミ兵隨テ強シト
ハ世人ノ常ニ唱フル所ナレト一概ニハ言ヒ難
キ者アリ我北海道及ヒ澳大利亞地方ノ如ク沃
野千里ニシテ天然ノ物産ニ富ミ隨テ衣食需要
ノ物品モ極メテ安價ナル國土ニ在リテコソ富
國強兵ヲ致スノ方便ハ專ラ人口ノ多寡ニ因ル

滿

慣習ニ
因テ地
代ヲ定
ムル法

○シト雖歐羅巴諸國我四國九州關西地方ノ如
キ人烟已ニ偏滿ニテ殆ト餘地無キニ至リテハ
其景况大ニ異ナリ即チ人口既ニ充實シ人ノ勤
勞ヲ適用スヘキ土地ハ既ニ開墾ヲ經テ纔ニ現
令ノ人民ヲ生息スルニ足ルノ三苟モ後來尚ホ
漫ニ人口ヲ増殖セハ傭人ノ賃銀不益下落シ食
料ハ愈騰貴シテ貧民ハ日ニ凍餒ノ境ニ臨ムニ
至ラン

經濟說略

下卷

配分ノ割合ハ各種アリ或ハ地主其收穫ノ三分
 ニヲ受クルアリ而シテ我國ノ如キハ田畑共ニ
 其收穫ノ半ヲ納ムルアリ或ハ年々一定ノ金額
 ヲ以テスルアリテ地方ノ慣習ニ由テ自ラ其方
 法ヲ異ニス此方法ニ因ル時ハ稍不公平無キヲ
 免レス之ヲ要スルニ我國ノ地代ハ慣習法ニ由
 テ定ムルモノト云フヘキナリ

第二章

賃銀ノ事

○他人ノ為メニ勞動シテ獲ル所ノ報酬ヲ名ケ

競争ニ
由テ定

マル賃
銀

テ賃銀又ハ手間料ト云フ凡ソ工職人ノ賃銀ハ
 多クハ競争ニ由テ定マルモノナリ畢竟傭主ト
 被傭人トハ尚ホ品物ノ買手ト賣手トノ如シ傭
 主ハ成ル丈ケ安價ノ賃銀ヲ以テ之ヲ買ントシ
 被傭人ハ勤メテ高價ヲ以テ我手間ヲ賣ントス
 故ニ百工製造繁クシテ工職人拂底ナル時ハ傭
 主ハ互ニ相競テ之ヲ傭ヒ入ントスルニヨリ自
 然ニ其賃銀ヲ騰貴スヘシ之ニ反シ其事業不景
 氣ナル時ハ工職人互ニ相競テ自己ノ職業ヲ求
 ムルニヨリ其賃銀終ニ下落スルニ至ルナリ

アダム
スミス
氏ノ各
種ノ業
ニ賃銀
ノ差異
ヲ生ス
ル元源

第一源
因

○賃銀ハ職業ニ由テ自ラ差異アリ英國經濟學
士亞太斯密士氏之ヲ五件トス曰ク事業ノ快不
快ニ由リ曰ク其修業ノ難易ト學費ノ多寡トニ
因リ曰ク其業ニ間斷アルト否トニ因リ曰ク其
事業ヲ為サシムル者ニ要スル信任ノ大小ニ因
リ曰ク所學ノ成業豫定ニ難キニ由ル是ナリ
事業ノ快不快ニ由テ賃銀ニ差異ヲ生スルハ礦
山ノ事業ヲ觀レハ尤モ見易シトス夫レ窖中ニ
入テ働ク者ハ地上ニ居テ礦石ヲ碎キ或ハ之ヲ
篩ヒ或ハ之ヲ濯フ等ノ事業ニ比スレハ極メテ

危難ニシテ且ツ不快ナリ故ニ其賃銀ハ數倍ナ
ルヘシ凡ソ何業ニ係ラス親シク危難ヲ冒スカ
或ハ汚穢ニシテ其健康ニ害アルモノハ普通ノ
賃銀ノ外ニ此危難ト不快トヲ償フベキ價銀ヲ
受サルヘカラサルナリ
事業ニ因リ他人ニ恭敬セララル、モノト蔑視セ
ラル、モノトアリ是ニ由テ賃銀ニ自ラ差異ヲ
生ス例ヘハ學校教師、神官、武官等ノ給料ハ僅少
ナリト雖モ其身ハ上等社會ニ入リテ自然他人
ノ尊敬ヲ受ルカ故ニ甘シテ其業ニ就ケリ之ニ

反シ獄丁或ハ屠者等ノ如キ他人ニ輕蔑セラレ
ル者ハ格外ノ賃銀ヲ受テ其醜業ノ報酬ト為ス
ナリ

第二源

其事業ハ數年間ノ修業ヲ經サレハ其技術ヲ得
難キアリ或ハ僅ニ之ニ觸目シテ直ニ營業ト為
シ得ル者アリ是レ賃銀ニ差異ヲ生スル者ニシ
テ時計師、船大工等ハ少ナクモ八九年ノ修業ヲ
遂サレハ其技術ヲ學ヒ得サルノミナラス其間
ノ費用モ亦寡カラズ故ニ成業ノ後ハ尋常ノ職
業ヲ為ス者ノ得ル所ヨリ遙ニ多量ノ賃銀ヲ獲

第三源

テ多年ノ辛苦ト學費トヲ償ハサルヘカラス是
レ大工ノ手間料ト輕子ノ手間料トニ大ナル差
違アル所以ナリ
又經年ノ修業ニ加フルニ天稟ノ才徳ヲ具ヘサ
レハ其技術ヲ得難キモノアリ是レ第一等ノ唱
歌者俳優等ノ非常ノ手間料ヲ收ムル所以ナリ
事業ニ間斷アルト否トハ是レ又賃銀ニ差違ヲ
生スル一源因ナリ凡ソ何業ニ係ラス毎年平均
シテ唯九閱月間ノ外ハ其事業ニ就ク能ハサル
營業ハ九ヶ月間ニ於テ尋常工職人ノ十二ヶ月

間所得ノ賃銀ヲ得テ間隙ナル他ノ三ヶ月ノ費用ニ充テサルヘカラスモヤシ麥牙製造ノ如キハ盛夏ノ炎天ニアラサレハ能ハス瓦師及ヒ巧工等ハ冰雪凝凍ノ時節ニハ之ヲ營ム能ハス是レ高價ノ賃銀ヲ收ムル所以ナリ

事業ニ最モ誠實ヲ要スル者ハ其賃銀最モ高價ナリ蓋シ其要スル所ノ信任益大ナレハ賃銀モ亦愈多カラサルヘカラス即チ銀行ノ金櫃ヲ司ル者寶玉師ノ手傳人蒸氣機關司鐵道護衛市在巡查郵便配達人等ノ如キハ他人ヨリ多少誠實

第四源

第五源

律義ノ信ヲ得タル者ニアラサレハ之ヲ委ヌル能ハス此輩ニ於テモ我カ素行ノ方正ナルヲ認メラル、時ハ多少ノ責ヲ負フニヨリ其報酬トシテ若干ノ賃銀ヲ要求セサルヘカラス
所學ノ成業豫定シ難キヲ為メニ賃銀ニ差異ヲ生ヌル者アリ例ヘハ大工或ハ巧工ノ弟子ト為リタル少年カ成長ノ後其技倆ヲ學ヒ得サルハ幾ト稀ナリ然ルニ有名ノ醫者法律家カ其學習ノ費用ニ準シ非常ノ報銀ヲ得ル所以ノ者ハ其成業ヲ得ル者ノ至テ稀ナルカ故ナリ

第三章

財本ノ利潤ノ事

財本ノ利潤ハ
檢約ノ報酬ナ
リ

利潤ト成ル者
ニ三元
素アリ

○利潤ハ財貨ヲ造リ出シタル財本ノ報酬ニシ
テ債主カ金銀ヲ貸付ケテ相當ノ利息ヲ得ルハ
即チ常ニ節省シテ資金ヲ蓄積シタル報酬ナリ
抑利潤ト為ル者ニハ三元素アリ即チ金利ト損
失ニ酬フルモノト監督ノ給料ト是レナリ例ヘ
ハ負債主ヨリ債主ニ酬ユルモノハ財本ノ利子
ニシテ即チ利潤ノ一部分ナリ此ニ人アリ一萬
圓ノ財本即チ資本ヲ以テ紡績器械ヲ備ヘ一年

間ノ諸費ヲ引去テ外ニ二割ノ利潤即チ二千圓
ノ純益アレハ其一千圓ハ資本ノ利子ニシテ殘
リ一千圓ハ損失ヲ修理スルノ用ニ供スヘキ資
ト監督人ニ與フル給料ト為ルナリ是故ニ或國
ノ財本ノ利子ノ相場如何ヲ知ラント欲セハ必
モ損失ノ虞ナク又手數ヲモ要セス手ヲ束子テ
得ル所ノ利子ニ注目スルニ如カス世界萬國ニ
行ハル、政府ノ確實ナル公債證書ハ即チ是レ
ナリ是故ニ各種工業ノ利潤ニ於テ多少ノ異ヲ
生スルモノハ皆損失ノ虞ニ酬ユルノ一ナラサ

ルト監督ノ給料ニ充ツルノ均シカラサルトニ
因ルナリ讀者須ラタ此ニ注目シテ利潤ト利子
トノ別ヲ判スヘシ

利子非
常ニ貴
キハ其
國開化
セサル
一原因
ナリ

○人文未タ開ケス政府ニ於テ人民ノ私有物ヲ
保護スルノ方法未タ備ハラサル國ニ在テハ財
本ノ利潤中損失ニ備フルモノ最モ多キニ居ル
聞説ラク亞細亞洲中波斯亞坦西藏印度等ノ部
落ニ於テ民間金銀貸借ノ利子ハ極メテ高クシ
テ其中最モ安利ナリト稱スル者ト雖モ僅ニ一
二年ノ利子ヲ收レハ其原金ヲ取戻サハルモ相

當ノ利益アリ而シテ其政府カ人民ニ向テ國債
ヲ募ルモ亦然リト是レ其政府ニ於テ確實ナル
裁判法ノ設無ク債主ハ不實ナル負債主ニ遇フ
モ容易ニ之ヲ訴フルノ路無キカ故ナリ文明諸
國ト雖モ三割乃至四割ノ高利ヲ拂フテ金銀ヲ
借ルモノ無キニアラス是レ債主其人ニ於テ返
濟ノ信任薄クシテ損失ノ恐多キカ故ナリ蓋シ
高利貸ノ利潤ハ非常ニ多キカ如シト雖モ其實
身代限等ノ為メニ其原金ヲ損失スルモノ多キ
ニヨリ豫メ其損失ヲ償フニ備フルカ為メナリ

且ツ其營業ハ世間ニ向テ耻ツヘキコナレハ諸人ノ競テ之ヲ為サ、ルニ因リテ多分ノ利ヲ得ルナリ

物價ノ貴キハ必ス常ニ利潤多キニアラフ

○物價ノ貴キハ其物品ヲ製作スル者ニ於テ利潤多キ徵候ニアラス戦争又ハ偶然ノ事故ヲ生シテ之ニ要スル物品ノ價格一時非常ニ騰貴セル場合等ヲ除クノ外凡ソ或ル物價非常ニ貴ケレハ諸人競テ其物品ノ製作ヲ起スニヨリ久シカラスレテ復タ相當ノ利潤ニ戻ルモノトス是レ千古動カスヘカラサルノ定理ナリ

第四章

共同肆店及ヒ工業社ノ事

特社ノ主意

○西洋諸國ニハ百工製造ノ職人等互ニ申シ合セテ協同結社セル者數種アリ其主意ハ同職中互ニ親睦シテ共ニ利益ヲ圖ルニ在リテ其社員タル者ハ毎月必ス若干ノ金額ヲ會社ニ入ル、ヲ定規トス而シテ其便益ヲ達スルノ方法數種アリ或ハ其社金ヲ資本ト為シテ相共ニ日用ノ物品ヲ賣捌ク肆店ヲ設クルアリ或ハ之ヲ資本トシテ普請等ヲ請負ヒ社員中ニテ働クアリ

ロチデ
ルビ
社
利
子
ル

今爰ニ例ヲ掲ケテ此共同肆店ト作業共同ノ利
 益トヲ説明スヘシ抑共同肆店ハ英國倫敦府并
 =他ノ大都會ニ流行スル者ニシテ其旨趣ハ現
 金ヲ以テ日用ノ物品ヲ賣捌クニアリ凡ソ此肆
 店ニ於テ幣ク所ノ物品ハ第一問屋ノ卸直段ニ
 シテ其質モ亦良美ナリ英國ニ於テ此肆店ノ創
 立ハ一千八百四十四年ニアリテ即チ其時開ク
 所ノ者ヲロチデル、ピオ子ル社ト云フ抑其起原
 ヲ尋ヌルニ初メロチデル府ノ織工二十八名申
 シ合セテ日々所得ノ賃銀中ヨリ出銀シテ少許

ノ資本ヲ造リ之ヲ以テ問屋商ヨリ茶一箱ト砂
 糖一箱ヲ仕入レテ一肆店ヲ開キタリ是ヨリ後
 二十八名ノ者ハ皆現金ヲ以テ此店ヨリ物品ヲ
 買入レシカ社員日ニ月ニ増加シテ資本益加ハ
 リ今日ニ至テハ毎年凡ソ一百二十三萬圓ノ取
 引ヲ為セル有名ナル一大商業會社ト為レリ此
 商會ハ今日ニ至ルモ依然トシテ現金賣買ノ法
 ヲ守リ其物品ハ通價ニテ賣捌キ四季ニ其出納
 ヲ計算シテ其利潤ヲ配當ス即チ株主ニハ年利
 五朱ヲ以テシテ其餘贏ノ利益ハ物品ノ賣高ニ

佛國巴里ノ作
業共同社

應シテ本店ノ主顧人ニ配賦スルヲ例トス
又作業共同社ニモ各様ノ方法アリト雖モ今日
最モ結社ノ完全ヲ致セル者ハ佛國巴里府ノ會
社ニシテ其創立ハ一千八百五十二年ニ在リ初
メ十七名ノ巧工協議シテ毫モ他人ノ資本ヲ借
ラス各自ノ賃銀中ヨリ若干ノ懸金ヲ投入シ一
社ヲ結ヒテ若干ノ資本ヲ造リタリ他日之ヲ以
テ其營業ヲ興シ、カ結社ノ方法其宜シキヲ得
テ社員日ニ月ニ増加シテ漸ク旺盛ヲ致シ方今
ハ數萬圓ノ資本ヲ積ミ巴里府内ノ結構壯大ナ

ル屋舎ハ多クハ其社ノ請負ヲ以テ建築スル所
ナリ凡ソ此社ニ役スル職人ハ各自若干ノ資本
ヲ投入シテ通常ノ賃銀ハ時々ニ之ヲ給シ其資
本ヲ以テ得ル所ノ純益ハ資本ノ年利トシテ金
額五分ノ二ヲ引去リ残り五分ノ三ヲ一年間各
工人ノ勉勞シタル多寡ニ應シテ配當スルヲ例
トス此方法ニ因ル時ハ工人ハ其執役ノ勤惰ハ
直ニ自己ノ一身ノ損益ニ關スルニ因リ他ノ督
責ヲ待タズシテ自然ニ勉強心ヲ起セリ余ハ此
ノ如キ良法ノ我工業社會中ニ起ラシヲ希望

レテ聊カ其大意ヲ此篇末ニ述フルモノナリ

外國交易及ヒ信用論

第一章

外國交易ノ事

外國交易ノ直益

○夫レ外國交易ノ直益ハ各國天然有利ノ物産ヲ出レテ字内化育ノカヲ輔クルニ在リ是レ即チ外國交易ヲ開クノ要點ニレテ凡ソ何國ト雖モ此天然ノ利益アル貨殖ニ從事セハ財本ヲ消費スルヲ最モ以ナクシテ其産出スル所ノ物量ハ最モ多カル、レ英國經濟學士彌爾氏曰ク人

アリ國家富盛ヲ致スノ路ハ外國貿易ニ淵源ス
ト云ハンニ世人皆商賈カ外國交易ノ為メニ其家産ヲ興セルノ一點ニノミ其思想ヲ傾ケテ國內ノ衆庶カ鎖港ノ時ヨリ廉價ノ物品ヲ消費レテ日用ノ入費ヲ減スルノミナラス尚大ニ便利ヲ増セル要點ニ注目セサルハ交易ノ利益ヲ誤認スル者ト云フヘキナリト夫ノ外國貿易ニ從事セル商人ト雖モ特ニ專賣ノ權利ヲ有ツニアラサレハ其收ムル所ノ利益ハ自國ノ通商ヲ為スト一般ナリ要スルニ外國交易ハ物價ヲ下落

セシムルノ良法ニシテ其利益ヲ得ルモノハ其
物品ノ消費者在リテ賈人ハ消費者ノ占ムル
利益ノ多寡ニ關セス止世間通例ノ利潤ヲ收ム
ルノミ

外國交
易ハ開
接ノ利
益アリ

○蓋シ外國貿易ハ獨リ萬國互ニ有無ヲ相通シ
テ貨殖ノ道ヲ裨益スルノミナラス各國人民ノ
智識ヲ開キ德行ヲ修ムルニ影響ヲ及ホス一亦
大ナリト謂フヘシ苟モ地球上ニ於テ萬國ノ人
民ヲ來往出入セシメテ其文明ヲ誘導シ其和平
ヲ維持スル所以ノ者ハ交易ノ餘澤ニアラスシ

自由貿
易

テ何ゾヤ凡ソ人情風俗及ヒ制度文物ノ互ニ相
異ナル人民ノ間ニ親密ノ交際ヲ結ヒ自國ノ制
度律令及ヒ人情風俗ヲ他國ト比較商量シテ彼
我ノ長短ヲ取捨補益スルノミナラス其從前敵
視ノ情意ヲ散シテ遠人ト相共ニ親睦スルノ有
益ヲ生スルモノハ皆外國貿易ノ餘澤ニアラサ
ルハナシ

○自由貿易ハ其國ノ政府ニ於テ海外貿易上ニ
抑制ノ法ヲ加ヘス自國ノ產物ヲ自由ニ外國ニ
輸出シテ其我ニ天然ノ利無キ物產ヲ他邦ヨリ

輸入スルヲ云フナリ例ヘハ我日本及ヒ支那ノ如キ氣候特ニ養蠶及ヒ種茶ニ適セルノミナラス人民モ亦之ニ練熟セル國土ニ在テハ夥多之ヲ産出シテ其製スル所ノ茶及ヒ生糸ヲ以テ英國及ヒ亞米利加等ノ如キ風土特ニ之ニ適セサル地方人民ノ市場ニ供備スルカ如シ之ヲ要スルニ自由貿易ノ利益ハ全ク自國ニテ産出スル能ハサル物品ヲ他邦ヨリ輸入シ或ハ自國ニテ産出シ得ルモ他邦ニ比スルニ特ニ許多ノ勤勞ト財本ヲ要スル物品ハ彼我交換メ共ニ公益ヲ

得ル者トス

保護税

○政府法令ヲ設テ外國ヨリ輸入セル物産ニ苛重ノ關稅ヲ賦課シ以テ其輸入ヲ箱束シテ自國ノ産業ヲ保護スルモノヲ名ケテ保護税法ト云フ即チ自由貿易ニ相互スルノ法ナリ方今宇内萬國自由貿易ヲ行フ者ハ獨リ英國ノミニシテ其他ノ諸國ハ多少保護法アルヲ免レス就中亞米利加合衆國ニ於テハ專ラ保護税ノ政ヲ施行セリ歐米諸國共ニ經濟學者等ハ槩ニ保護税ノ天理人道ニ悖レルノ說ヲ主張シテ喋々ト其非

ヲ辯論シテ止マスト雖モ各國尚ホ多少ノ保護
税法ヲ行ヘリ是レ其國政府ノ己ムヲ得サル政
畧ニ出ルナリ

佛國ノ
引例

例ヘハ佛國ニ於テ本國ノ砂糖ノ培植人ヲ保護
スルカ為メニ其外國ヨリ輸入スル者ニハ重税
ヲ課シテ之ヲ拒絶セントス佛國若シ此法ヲ廢
シテ自由ニ西印度ヨリ砂糖ヲ輸入セシメハ印
度ヨリスルモノハ本國ニ於テ製作スル物ト同
品ニシテ價直ハ頗ル安直ナルニヨリ誰カ本國
産出ノ砂糖ヲ購ハンヤ是ニ於テカ佛國ノ砂糖

耕作人ハ忽チ其營業ヲ失フテ一時困窮ニ陥キ
ルヘシ然レモ其實佛國若シ印度ノ砂糖ニ重税
ヲ課シテ拒絶セズンハ本國砂糖培植人ハ皆天
然不利ノ産業ヲ廢シテ其資本ト勞カトヲ移シ
テ葡萄耕作ノ如キ天然其國ニ利アル産業ニ適
用スルニ至ルヘケレハ其耕作人ニ對シ何ソ苛
酷ト謂フヘケンヤ蓋シ砂糖耕作人タル一部分
ノ營業ヲ保護センカ為メニ他ノ全國人民ニ強
ヒテ高價ノ砂糖ヲ使用セシムルハ策ノ得タル
者タラザルヘシト雖モ是又一種ノ勸業法ニシ

テ勢然ラサルヲ得ザルノ事情ニ因ルナルベシ

第二章

信用ノ事

草昧未開ノ世ニ在テハ信用ナル者ハ人嘗テ之ヲ知ラス是レ即チ一ハ財本ノ蓄積極メテ歎少ナルト一ハ信用上ノ融通ニ緊要ナル公平ノ公事裁判局ノ設無キカ為メ負債主或ハ約定ノ期月ニ其借財ヲ返濟セサルモ債主ニ於テ容易ニ之ヲ訴ヘテ取戻ヌノ方便無キカ故ナリ然レモ世ノ人文漸ク開クルニ隨ヒ蓄積富有モ漸ク増

信用上ノ融通起ルノ理

レ隨テ政府ニ於テモ公平ノ裁判局ヲ設立シテ人民ノ負約ヲ責メ強ヒテ之ヲ遵守セシムルニ至ル是ニ於テカ始メテ信用上ノ融通起ルナリ此場合ニ至ルキハ自己ノ費用ニ餘リ有ル財本ヲ所有スル人ハ其部分ヲ他人ニ貸與シテ若干ノ利子ヲ收メントスルノ念ヲ生スヘシ又一方ニ於テハ他人ノ財本ヲ借リテ新夕ニ營業ヲ興サントスルカ若クハ從來ノ工業ヲ更ニ擴張セントスヘシ之ニ由テ彼我交互ノ便益ヲ達シテ共ニ蓄積富有ヲ増スニ至ルナリ

信用ノ解

○抑信用トハ專ラ財本貸借上ニ就テ謂フ者ニ
 レテ即チ金銀貨幣ノ貸借ニ就テ謂フ時ハ最モ
 簡約ニ説明スルヲ得ヘシ假令ハ爰ニ甲乙丙ノ
 三人アリ某甲某ノ乙ヲ信スル丙ヨリ厚ケレハ
 乙丙ノ兩人カ甲ニ向テ金銀ヲ借ルニ方リ乙ノ
 利子一割二分ナレハ丙ハ一割五分ヲ出サ、ル
 ヘカラス蓋シ甲ヨリ見ル時ハ乙丙ノ兩人返
 濟ヲ為シ得ル力量ニ厚薄アルカ致ヌ所ナリ一
 個人ニ就テ云フモ一國ニ就テ云フモ亦然リ土
 耳其政府カ外國ニ向テ國債ヲ募ルニ當テ一割

信用ノ取引ニ

一分ヨリ寡少ノ利子ニテハ何人モ其募ニ應ス
 ルモノナレ是レ其國ヲ信スルノ薄キカ故ニレ
 テ國運衰頽ニ趨キタルノ徴ナリ然ルニ英國政
 府ノ公債ノ利子ハ唯三朱四分ニ過キス但公債
 利子ノ高低ノミヲ以テ其國ノ信用如何ヲ卜定
 シ難キ場合アリ亞米利加合衆國ノ公債ハ七分
 ナリ是レ英國ヨリ信用ノ薄キカ故ニアラス該
 國ハ尚新開ノ土地ニシテ後來將ニ資本ヲ入
 テ着手セントスル事業許多ナルカ故ナリ
 ○信用上ノ融通ノ方法ニハ數種アリ即チ政府

ハ救種アリ

ノ金札銀行札、為替手形、振出手形、帳面上取引チ即
 世俗ノ通帳ヲ以テ 等ハ凡テ信用上ノ取引ヲ以
 賣買フルヲ云フ
 テ行ノ者ニシテ是レ即チ金銀貨幣ノ代用ヲ為
 スモノナリ故ニ全ク此等ノ取引ヲ廢シテ悉ク
 貨幣ヲ以テセハ夫丈ケ貨幣ノ流通高ヲ増サ、
 ルヲ得ス然ラサレハ其割合ニ貨幣ノ價格ヲ騰
 貴シテ物價下落スルニ至ルヘシ之ヲ以テ信用
 上ノ融通行ハルレハ其物價ニ影響スルヲ鮮火
 ナリサルナリ

合本會社

○信用上取引ノ實地人民ニ便益ヲ得セシムル

銀行

者ハ國內ノ財貨ヲシテ許多有益ノ資本ニ使用
 セシムルニ在リ是レ即チ合本會社諸人ヨリ少
 聚集シテ工業或ハ商業ヲ營ム會社ハ凡テ合本
 會社ニシテ株式取引所及ヒ米商會所等ハ即チ
 是レノ起ル所以ナリ此方法行ハル、時ハ些細
 ノ財本ニテモ之ヲ引出シテ即チ鐵道築造、鑛山
 其他凡テ一人一個ノカヲ以テ着手シ難キ百般
 有益ノ事業ニ利用スルヲ得ヘシ
 ○又信用ヲ以テ銀行ヲ設立スル時ハ諸人ハ自
 家ニ所持スル金錢ハ唯日用ノ小費ニ充ツルカ
 為メノミニシテ其他ハ一切銀行ニ委託シテ有

益ノ事業ニ使用スルヲ得ヘシ例ヘハ一歳ノ所得額一千圓アル人ハ之ヲ銀行ニ委託シ其入用アル毎ニ之ヲ引出サント約スル時ハ銀行ハ常ニ諸人ヨリ預リタル金高ノ内三分一ヲ正金ニテ備ヘ置ケハ何時委託人ヨリ請取ニ来ルモ彼此ノ融通ヲ以テ會計上決シテ差支ヲ生セサルナリ銀行ハ斯ノ如キ少許ノ金ヲ四方ヨリ預リ集メテ其金額三分一ヲ金庫ニ準備シ置テ二分ヲ世人ニ貸付ケ或ハ自ラ生産ヲ興起スルノ用ニ充ツヘシ而シテ其獲ル所ノ利潤ハ銀行ノ株

主又ハ其事務ヲ司管スル諸役員ニ配分ス又銀行ニ金銀ヲ預ケタル人ハ何時タリトモ我入用アル毎ニ之ヲ引出スヲ得ルニヨリ銀行ハ緊要利子ヲ附セス然レモ預金ニモ定期預ト當座預トノ別アリ定期預ハ六箇月乃至一年間ヲ請戻ノ期限ト定メテ銀行ニ金額ヲ預クルヲ云フナリ我國立銀行ニ於テハ通例定期預金ニハ五六分ノ利子ヲ附セリ當座預ハ何時タリトモ之ヲ委託主ニ差戻スノ義務ヲ負フニヨリ假令銀行ハ其金額融通シテ多少ノ利益ヲ得ルトモ概シ

銀行設立ノ方法

テ之ニ利子ヲ加ヘサルナリ
 ○始メ銀行ヲ設立セントスルヤ世人ノ信用ヲ得且ツ財カアル者數名相議シテ銀行創立ノ發起人ト為リ政府ヨリ施行スル所ノ條例ニ隨ヒ設立ノ方法ヲ設ケテ世上ニ公告ス例ヘハ五十萬圓ノ銀行ヲ設立セントスルニハ之ヲ一株一百圓ツ、即チ五十萬株ニ分チ其株主タラントヲ希フ者ハ何月何日迄ニ申込ムヘキ旨ヲ公告ス因テ之ニ加入シタル者ハ其株數ノ全額ヲ出シテ銀行ノ株主ト為ルナリ而シテ銀行ハ五十

銀行紙幣ノ性質

萬圓ノ株金既ニ集マル時ハ株主中ヨリ人撰ヲ以テ頭取及ヒ支配人ヲ公撰シテ銀行ノ事務ヲ調理セシム其以下ノ諸役員ハ頭取并ニ支配人相議シテ之ヲ登用ス是ニ於テ銀行ハ株主中ヨリ拂込タル金額ヲ資本トシテ紙幣ヲ發行シ貸付ヲ為シ諸商人ノ為替ヲ組ニ其他諸般ノ取引ヲ為スナリ
 ○抑銀行紙幣ハ直ニ金銀貨幣ト引替フヘキ證券ニシテ其差支ナク世間ニ通用スル所以ノ者ハ何時タリトモ之ヲ其發行シタル銀行ニ持參

スレハ直ニ正貨ト引替得ルヲ信スレハナリ果
シテ然ラハ紙幣ハ容易ニ携帶シ得ルヲ以テ至
利至便ト云ハサルヲ得ス然レモ銀行閉店シテ
遂ニ廢業スルニ至ル時ハ其發行紙幣ハ一片ノ
反古ト異ナラサルナリ

○方今世界萬國共ニ其流通紙幣中ニ交換紙幣
ト不交換紙幣トノ二種アリ我日本ノ如キハ方
今金銀貨幣ハ地ヲ掃テ跡ヲ絶チ世上ニ通用ス
ル所ハ專ラ太政官發行ハ金札ニシテ是レ即チ
我國ノ通用貨ナリ而シテ此金札ハ現ニ正金ト

交換紙幣及ヒ不交換紙幣ノ利害

引替ヲ為サ、ルノ制ナルニヨリ即チ不交換紙
幣トリ我國ノ銀行ニ於テハ此金札ヲ引替ノ準
備ト為スニヨリ何レノ國立銀行モ其發行紙幣
ト引替フル者ハ金銀貨ニアラスレテ即チ此金
札ナリ英國ニ於テハ政府ヨリ紙幣ヲ發行セス
現今英國立銀行ヨリ發行スル所ノ紙幣ハ殆ト
一億五千萬圓ニ至リシト雖モ常ニ正金ヲ準備
シテ何時タリトモ之ヲ引替フルニ差支ヲ生セ
サルニヨリ即チ英國ノ紙幣ハ交換紙幣ト云フ
ヘキナリ澳地利魯西亞意大利亞亞米利加合衆

國等々於此ハ許多ノ不交換紙幣ヲ發行セリ益
シ不交換紙幣ト雖トモ能ク其發行高ニ制限ヲ
立ルルハ其國ノ財政ヲ紊スコナクシテ之ヲ通
用スルヲ得ベシ例ヘハ前ニ亞米利加南北戰爭
ノ時ニ當リ政府ハ一時ニ大軍ヲ擧テ之ヲ養フ
カ為ニ異常ノ金額ヲ要シタリ若シ此時亞米利
加政府ハ其發行高ヲシテ此需要ヲ給スニ止ラ
シメハ斯ク世人ノ信ヲ失ハズ且物價ニモ亦影
響ヲ生セサリシナラン然ルニ政府已ニ其制限
ヲ超テ發高シタルカエハ内亂未タ平定ニ至ラ

紙幣ノ
直益

ナルノ間ニハ大ニ金貨トノ差ヲ生シテ一時財
政上最モ困難ヲ極タタリ然レモ今日ハ漸ク其
景勢ヲ挽回シテ幾ト故常ニ復スルヲ得タリ
○凡ソ紙幣ハ政府ノ金札ト銀行ノ紙幣トヲ問
ハス之ニ信用アル時ハ唯紙幣ノミヲ以テスル
モ多少ノ直益アリ凡ソ何國ヲ問ハス紙幣ハ必
ズ貨幣ニ代用スル者ナレハ若シ之ヲ廢棄スル
時ハ大ニ金銀貨幣ノ高ヲ増製セサルヘカラス
而ルニ金銀ノ如キ貴價ノ物品ニ代フルニ紙幣
ノ如キ低價ノ物質ヲ以テシ通用滯ラサルヲ金

銀ニ異ナラサレハ其實益ヤ實ニ少ナカラス例
ハ我一圓金札ヲ製造スルノ費用ハ實ニ之ヲ
量ルコトヲ得スト雖モ其物品ヲ賣買スルノ功用
ニ至テハ一圓ノ金貨ト毫モ異ナルヲ無キナリ

第三章

國民ニ租税ヲ賦課スル所以ノ理ヲ論
ス

○凡ソ國民ノ生命及ヒ私有物ヲ保護シテ其生
計ヲ安寧ナラシムルハ其國政府タル者ノ職分
ナリ政府既ニ人民ニ代テ此職分ヲ引受ル時ハ

租税ヲ
課スル
ノ理

第一ニ海陸軍ヲ設ケテ内憂外患ヲ豫防セサル
ヘカラス警保官ヲ設テ人民ノ禍害ヲ警戒セサ
ルヘカラス公事裁判所ヲ建テ、刑罰ヲ正ウセ
サルヘカラス諸官省ヲ置テ制度法令ヲ施行シ
外國交際ヲ為サルヘカラス其他國民ヲ保護
スルノ事故擧ニ違アラサルナリ苟モ此等ノ職
分ヲ盡スニハ許多ノ官吏ヲ置カサルヲ得ス而
シテ其費用ハ何ヲ以テ支辨センカ即チ國民ニ
租税ヲ賦課シテ之ヲ徵聚スルノ外他策ノカル
ヘシ又其國民タル者ハ其國ニ居テ此ノ如キ保

護ヲ仰ク以上ハ貴賤上下ノ別無ク義務トシテ相當ノ租税ヲ負擔セサルヘカラス然リ而シテ歐洲諸國ト雖モ近年ニ至ルマテハ我國ノ明治維新ノ前ニ於ケルカ如ク大小ノ諸侯貴族及ヒ僧侶等ハ租税免除ノ特典ヲ蒙リ之ヲ負擔セシ者ハ平民ノミニ止マレリ前キニ佛國ニ於テ全國ノ平民蜂起シテ國王ヲ始メトシ王朝ノ貴臣及ヒ貴族僧侶ヲ暴殺シテ數年ノ間佛蘭西邦内ニ鮮血杵ヲ漂スカ如キ悲惨ノ大革命ヲ釀成セシハ職トシテ貴族僧侶等ニ租税免除ノ特典ア

ルカ為メニ淵源スル者多シ然レハ往年ハ各國共ニ國家ノ經費ヲ支給スル所ノモノハ毫モ其國ノ政事ニ參預セサル平民ノミナリキ我國ニ於テモ維新以來廢藩置縣ノ新制ヲ施行シテ天下ノ政令ヲ一新シ人民モ漸次公義正道ノ何物タルヲ辨知スルニ至リ苟モ政府ノ保護ヲ受ル者ハ華士族平民ノ別無ク相當ノ租税ヲ負擔スルトトハ為レリ而シテ今年ハ府縣會ノ創設アリテ庶民普ネク稍地方財政ノ一部分ニ喙ヲ容ル、ヲ得ルニ至レリ勢已ニ此ニ及ヘリ則チ國

會ノ開設モ己ニ遠キニアラサルヘシト信スルナリ

第四章

租税徴收法

租税ノ徴收法ハ各國共ニ古来ノ制度慣習ノ異ナルニ從テ各其方法ヲ異ニスルニヨリ我輩ハ今爰ニ徴税法ノ基本ト為ス所ノ亞太斯密士氏ノ確論セル收税法四則ヲ掲テ其利害ヲ陳ヘ而シテ直税及ヒ間税ノ別ヲ示サント欲ス
第一則 凡ソ何人タリモ一國政府ノ下ニ居テ

亞太斯密士氏ノ徴税法四則

其保護ヲ受クル者ハ其所得ノ高ニ應シテ政府ノ費用ヲ支辨セサルヘカラス

第二則 凡ソ租税ハ漫リニ賦課スヘカラス必ス一定ノ規則ニ因ルヘシ即チ上納ノ時節之ヲ納ムル方法及ヒ其納額ノ如キハ納税主ハ勿論其他諸人ニ明示シテ判然之ヲ了知セシムルヲ要ス

第三則 凡ソ租税ハ之ヲ納ムル者ノ為メニ最モ便利ノ時節ト方法トニ由テ之ヲ徴收セサルヘカラス

第四則 凡ソ租税ハ到底大蔵省ノ倉庫ニ納ル者ノ外成丈ケ人民ノ費用ヲ要セサルノ方法ヲ以テ之ヲ取立ツベシ

右ニ陳述スル所ノ四則中第三則及ヒ第四則ハ徵税法ニ於テ必ス履行セサルヘカラサルモノニシテ今又此レカ辨解ヲ要セサルモノ、如シ然レモ其第一則ヲ適用スルニ當テハ收税上稍偏輕偏重無キヲ免レサルニヨリ爰ニ其公平ヲ得ルノ良法ヲ記載セサルヘカラス

例ヘハ爰ニ年益一千圓ノ收額アル土地ヲ所有

スル甲乙二人ノ豪農アリ甲ハ獨身ニシテ一人ノ家族タモ有タス然ルニ乙ハ親子兄弟共ニ十五人ノ家族アリトセハ蓋シ乙ノ生計ノ資金ハ甲ト同一トリト謂フヲ得ス然レモ第一則ノ徵税法ニ據ル時ハ甲乙家族ノ多少ヲ計リテ甲ノ納ムヘキ税額ヲ乙ニ免除スルノ理無カラシ其所得同一ナルヲ以テナリ然レモ凡ソ何國ト雖モ現今行ハル、所ノ收税法ヲ以テスレハ乙ハ甲ヨリ多量ノ税額ヲ納ムルノ理ナリ何トナレハ乙ハ家族多人數ナルカ為メニ蓋シ甲ニ比ス

レハ多量ノ酒煙草ノ類ヲ購求スルカ故ニ此等ノ物品税ヲ納ムル高ノ多キハ勿論家宅等ハ大ナルカ為メニ多分ノ地方税ヲ賦課セラルヘキハ必然ナリ是故ニ物品ニ賦課スル税目ハ各人ヲシテ其生計ノ資ニ比例シテ賦税ヲ納メシメント欲スルハ到底為シ能ハサルモノ、如シ畢竟收税ノ公平ヲ得ント欲シテ各人民カ其政府ヨリ受クル所ノ保護ニ比例シテ之ヲ賦課セントスルハ無益ノ事タルヘキナリ

第五章

直税及
ヒ間税

直税及ヒ間税ノ別

直税トハ其賦課セラレタル者ヲリ全ク直納スル者ヲ云フナリ即チ戸税人力車馬車税貸馬車及ヒ貸人力車等ノ如キ是レナリ間税トハ陽ニ他人ノ納ムル所ノ者ヲ陰ニ之ニ代テ納ムル者ヲ云フ例ハ酒造家ハ酒一石ニ付何程煙草舖ハ煙草一斤ニ付若干價ノ印紙税ヲ貼用シテ現ニ定例ノ税額ヲ納ムト雖モ其實之ヲ購求シテ喫飲スル人ノ負フ所ト為ルナリ何ントナレハ其賦課セラレタル丈ケノ價ハ必ス其物品ノ代價ニ加

フレハナリ是故ニ物品税ハ大概間税ナリ

第六章

地租

我國王政維新ノ前マテハ土地ハ徳川幕府ヨリ
 以下大小諸侯ノ所有物ニ屬シテ人民ハ各自ニ
 所有スル名アルモ公然之ヲ賣買スルノ權無ク
 其領主ノ用地トナレハ何時之ヲ取上ラル、モ
 敢テ異論ヲ生スルノ權利ナシ故ニ所有ノ名ア
 リテ其實無シ是レ封建制度ノ然ラシムル所ナ
 リ然リ而シテ其租税ヲ課スルヤ田畑石盛コクモリノ法

我國ノ租稅徵收法

ト古来ノ慣習法トニ由テ之ヲ定メ大概收穫ノ
 作益過半ハ貢租トシテ領主ニ納ムルヲ定例ト
 セリ然ルニ明治維新以來萬般ノ制度ト共ニ大ニ
 全國ノ收税法ヲ改革シテ從來ノ田畑貢納ノ法
 ハ悉皆廢棄シ夫々地價ヲ定メテ地券ヲ發行シ
 土地ヲ以テ各自人民ノ所有物ト為シ其地價百
 分ノ二分五厘ヲ以テ地租トシテ太政府ニ收入
 スル所トシ而シテ民費トシテ地方官ヨリ賦課
 スル者ヲ正租三分ノ一ヨリ多カラスト定メタ
 リ是レ目今現行スル所ノ日本田畑收税法ナリ

但レ其利害ニ至テハ數年實驗ノ後ニアラサレ
ハ斷言スル能ハサルナリ

經濟說畧下卷了

ナリ 二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

東京府士族

編者 永田健助

永田健助

牛込區揚場町十八番地

東京日本橋區馬喰町三丁目一番地

發兌 書肆

石川治兵衛

權免許

東京

山中市兵衛

麿嶋

吉田幸兵衛

明治十

同

九家善七

同

徳重直助

三年十

大坂

梅原龜七

陸前

小野寺真助

二月改

西京

杉本甚助

栃木

小林八郎

正再版

尾張

栗田東平

埼玉

長嶋為一郎

御届

高等一級

服部春之助

扣